

4 調査結果の分析

(1) 定住志向

**これからも区内にずっと住み続けたい
～住み続ける・たぶん住み続けるが7割～**

これからもずっと港北区内に住み続けようと思っているかを尋ねたところ、「住み続ける」が27.2%、「たぶん住み続ける」が43.9%で、合わせて71.1%となった。【図25】

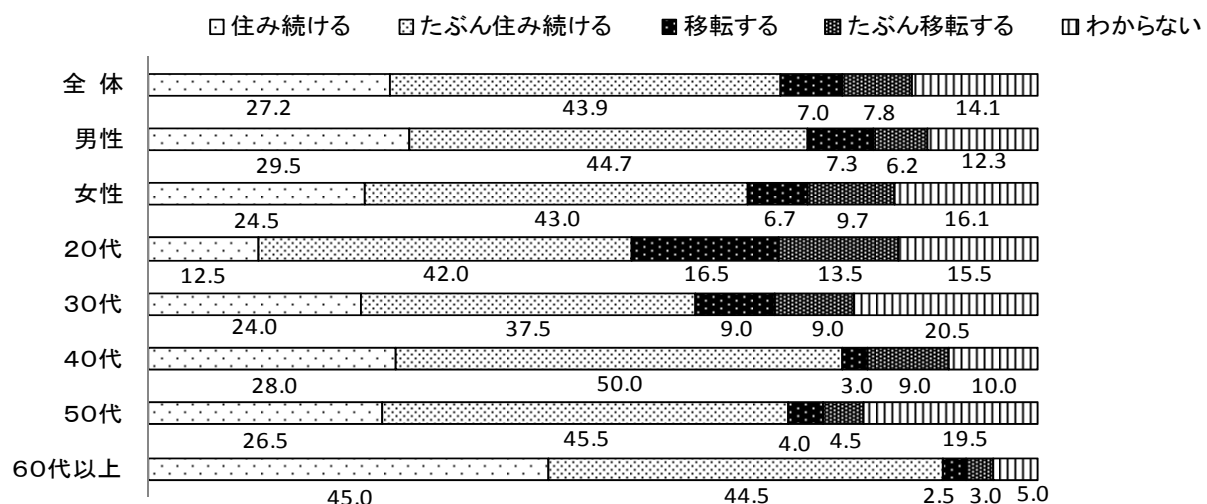
年代別にみると、年代が上がるにつれて定住志向も上がるが、20代でも半数以上が「住み続ける」「たぶん住み続ける」と回答している。【図25】

住み続けようと思う理由では、「交通が便利だから」が最も多く、次いで「住んでいる場所に愛着を感じているから」、「買い物に便利だから」と続いた。【表1】

【図25】 性別・年代別

問9 これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか（単一選択）（%）

（全体：N=1000、男性：N=535、女性：N=465、20代：N=200、30代：N=200、40代：N=200、50代：N=200、60代以上：N=200）



【表1】 問10 港北区内に住み続けようと思う理由（複数選択）（%）（N=711）

	項目	率
1位	交通が便利だから	67.9
2位	住んでいる場所に愛着を感じているから	61.6
3位	買い物に便利だから	48.5
4位	緑や自然が多いから	31.6
5位	治安がよいから	30.4
6位	街並みなどの景観が良いから	18.3
7位	病院が近くにあるから	18.1
8位	地域の人間関係が良いから	17.9
9位	公共施設が充実しているから	15.2
10位	その他	11.3
11位	子育てや教育環境が良いから	8.7

(2) 充実させてほしい区の業務

区役所に対する要望は幅広い ～道路や公園の管理、災害に強いまちづくりを望む～

区役所の業務（窓口サービス以外の取組）について今後より充実させてほしいと思うものについて尋ねたところ、最も多かったのが「道路や公園の管理」、次いで「災害に強いまちづくり」となった。

「道路や公園の管理」の具体的な内容をみると、道路や公園の整備を望む声が多い。また、「災害に強いまちづくり」については、避難場所の周知など広報面の充実を望む声が多かった。【表2】

【表2】

問11 区役所の窓口サービス以外の業務について、今後、より充実させてほしいと思うもの（3つまで回答）

順位	項目	主な具体的内容
1位	道路や公園の管理	・道路について：整備（27件）、狭い（35件）、管理（10件） ・公園について：整備（23件）、管理（10件）、設備（10件） ・駐車駐輪について（14件）・街路樹・緑化について（16件）・ごみ等について（15件）・街路灯について（10件） など
2位	災害に強いまちづくり	・ハザードマップなどの広報の充実（30件）・避難場所について（21件）・訓練について（12件）・水害について（16件）・道路について（10件） など
3位	子育て不安の軽減などの子育て支援	・待機児童対策について（36件） ・子育てにかかる費用の軽減について（26件） など
4位	区役所からの広報などの情報提供	・ネットやメールによる情報提供について（25件） ・情報の内容について（22件） ・配布方法・配架先について（17件） など
5位	高齢者の見守り支援などの高齢者福祉	・一人暮らしの高齢者の見守りについて（19件） ・介護・デイケアについて（11件） など
6位	病気の予防や食の安全などの健康づくり、衛生管理	・健康診断の充実について（23件） など
7位	生涯学習などの区民の活動支援	・講座の充実について（19件） ・図書館について（17件） など
8位	その他	・図書館などの施設の充実（23件）・区役所について（12件） など ※「特になし」との意見（139件）を除いた順位です。
9位	区内各所でのイベント開催などの魅力づくり	・お祭りについて（14件） ・その他のイベントについて（19件） など
10位	町内会・自治会などの地域活動支援	・活動について（13件） など
11位	生涯者の生活支援などの障害者福祉	・施設や道路の整備について（10件） など

(3) 近所とのつながり

近所への声かけ8割弱、近所に相談できる人は4割 ～年代によって近所とのつながりに差～

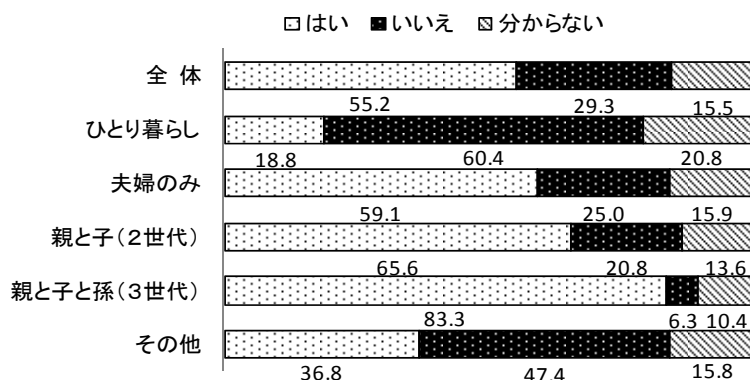
自治会・町内会に加入しているかを尋ねたところ、「加入している」との回答は55.2%となった。家族構成別では「ひとり暮らし」が18.8%、住居形態別では「賃貸住宅（マンションなどの共同住宅）」が17.6%となった。【図 26, 27】また、自治会・町内会への非加入理由は住居形態別で順位が異なる結果となった【表 3】。

近所の人に対し、あいさつなどで声をかけることがあるか聞いたところ、「よく声をかける」が32.8%「たまに声をかける」が43.1%で、合わせて75.9%となった。年代が上がるにつれて「よく声をかける」「たまに声をかける」との回答が増えている。【図 28】

身の回りのことで家族・親戚以外に近所に相談できる人がいるかという質問では、「いる」が16.5%「どちらかといえばいる」が23.9%で、合わせて40.4%となった。こちらも年代が上がるにつれて、「いる」「どちらかといえばいる」との回答が増えている。【図 29】また、家族・親戚以外で相談できると良いと思う相手は「近所の知り合い・友人」「仕事での知り合い・友人」の順となった。【図 30】

【図 26】 家族構成別 問 14 自治会・町内会に加入していますか（単一回答）（%）

（全体：N=1000、ひとり暮らし：N=192、夫婦のみ：N=264、親と子（2世代）：N=477、親と子と孫（3世代）：N=48、その他：N=19）



【図 27】 住居形態別 (持ち家（一戸建て）：N=331、持ち家（マンションなどの共同住宅）：N=308、賃貸住宅（一戸建て）：N=17、賃貸住宅（マンションなどの共同住宅）：N=312、社宅・公務員住宅・寮：N=29、その他：N=3)

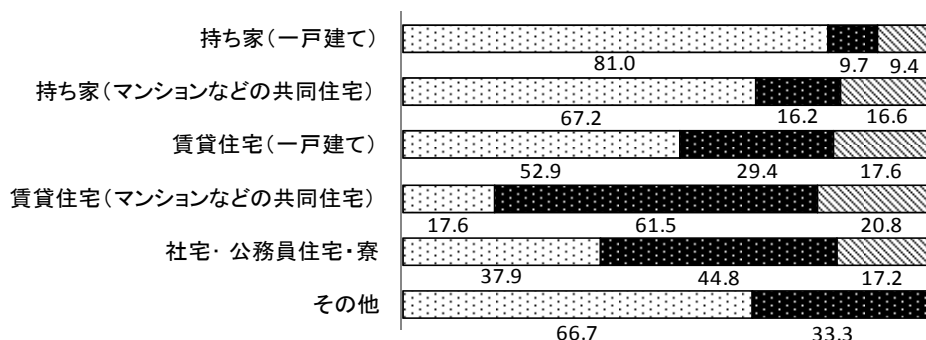


表 3 住居形態別 問 15 自治会・町内会への非加入理由（問 14 でいいえと答えた方）（単一回答）

	持ち家（一戸建て）	持ち家 （マンションなどの共同住宅）	賃貸住宅 （マンションなどの共同住宅）
1 位	町内会の活動がよく分からない	マンション管理組合などに加入している	加入方法がよく分からない
2 位	加入する必要性を感じない	加入する必要性を感じない	町内会の活動がよく分からない
3 位	必要とされる情報が得られない	加入方法がよく分からない	加入する必要性を感じない

【図 28】 年代別 問 18 近所の人に対し、あいさつなどで声をかけることがありますか（単一回答）（％）

（全体：N=1000、20代：N=200、30代：N=200、40代：N=200、50代：N=200、60代以上：N=200）

□よく声をかける □たまに声をかける ■あまり声をかけない ■まったく声をかけない

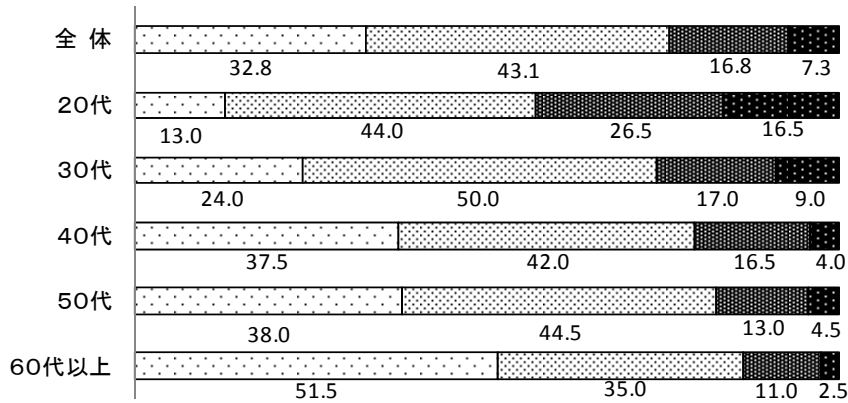


図 29 年代別

問 19 身の回りのことで、ちょっと困ったことがあった場合、家族・親戚以外に近所に相談できる人がいますか

（単一回答）（％）（全体：N=1000、20代：N=200、30代：N=200、40代：N=200、50代：N=200、60代以上：N=200）

□いる □どちらかといえばいる ■どちらかといえない ■いない

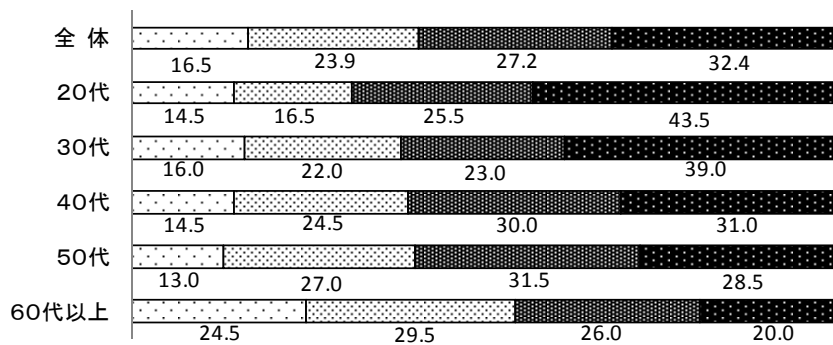
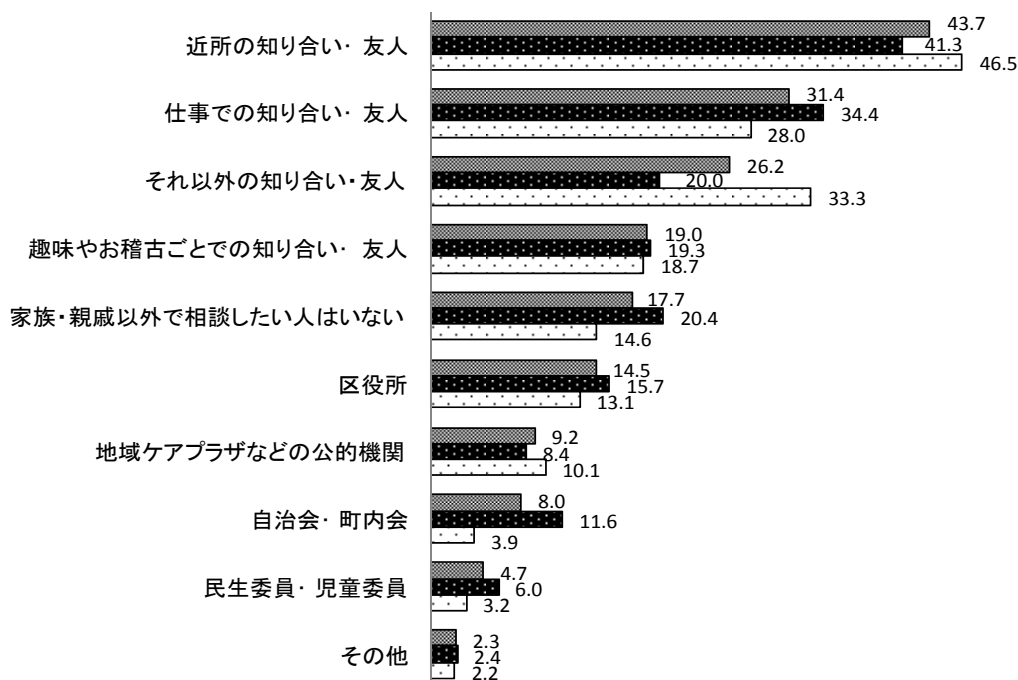


図 30 性別

問 20 身の回りのことで、ちょっと困ったことがあった場合、家族・親戚以外に相談できると良いと思う相手

（3つまで回答）（％）（全体：N=1000、男性：N=535、女性：N=465）

■ 全体 ■ 男性 □ 女性



(4) 子育て支援

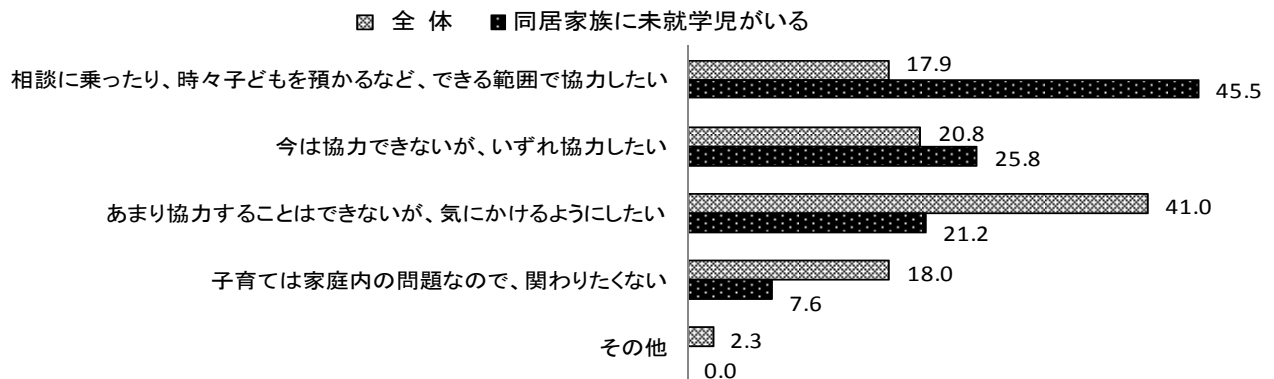
**地域の子育てに「協力したい」「いずれ協力したい」「気にかけるようにしたい」が約8割
～児童虐待への対応は行政機関に連絡するが5割強～**

地域での子育てに協力したいと思うか尋ねたところ、「できる範囲で協力したい」、「いずれ協力したい」、「気にかけるようにしたい」を合わせると79.7%となった。中でも、同居家族に未就学児がいる層では、45.5%が「できる範囲で協力したい」と回答した。【図31】

子育て支援サービスについては、同居家族に未就学児がいる層での認知度は、「横浜子育てサポートシステム」が53%、「地域子育て支援拠点『どろっぷ』」が69.7%、「保育園での子育て支援事業」は57.6%となったが、全体での認知度はそれぞれ2割程度だった。【図32】

【図31】同居の未就学児（保育園児・幼稚園児は除く）別

問21 地域の子育てに協力したいと思いますか（単一回答）（%）（全体：N=1000、同居家族に未就学児がいる：N=66）

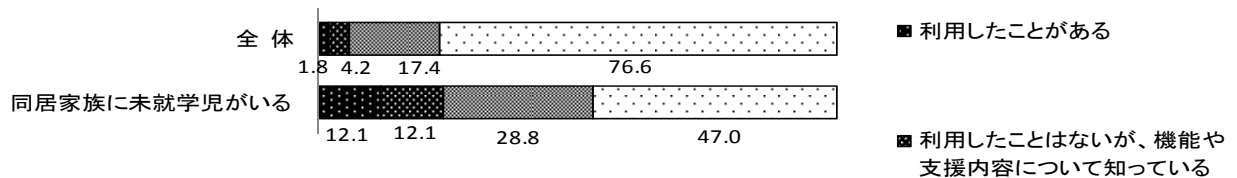


【図32】問22 港北区で行われている子育て支援サービスのうち、次の（ア）～（ウ）について

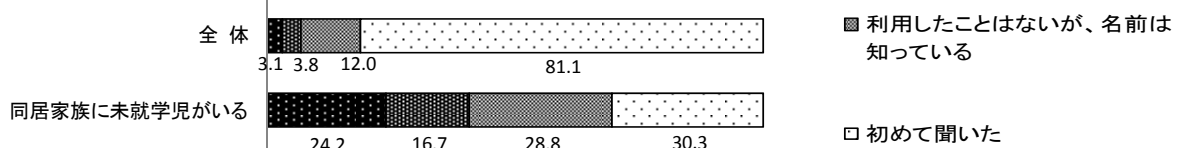
どれくらいご存知でしたか（単一回答）（%）

（全体：N=1000、同居家族に未就学児がいる：N=66）

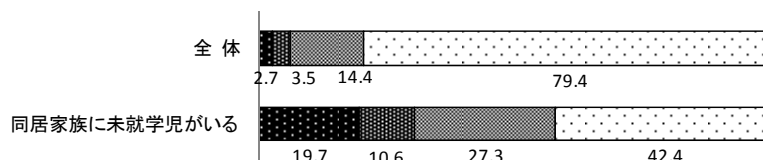
（ア）横浜子育てサポートシステム



（イ）地域子育て支援拠点「どろっぷ」



（ウ）保育園での子育て支援事業



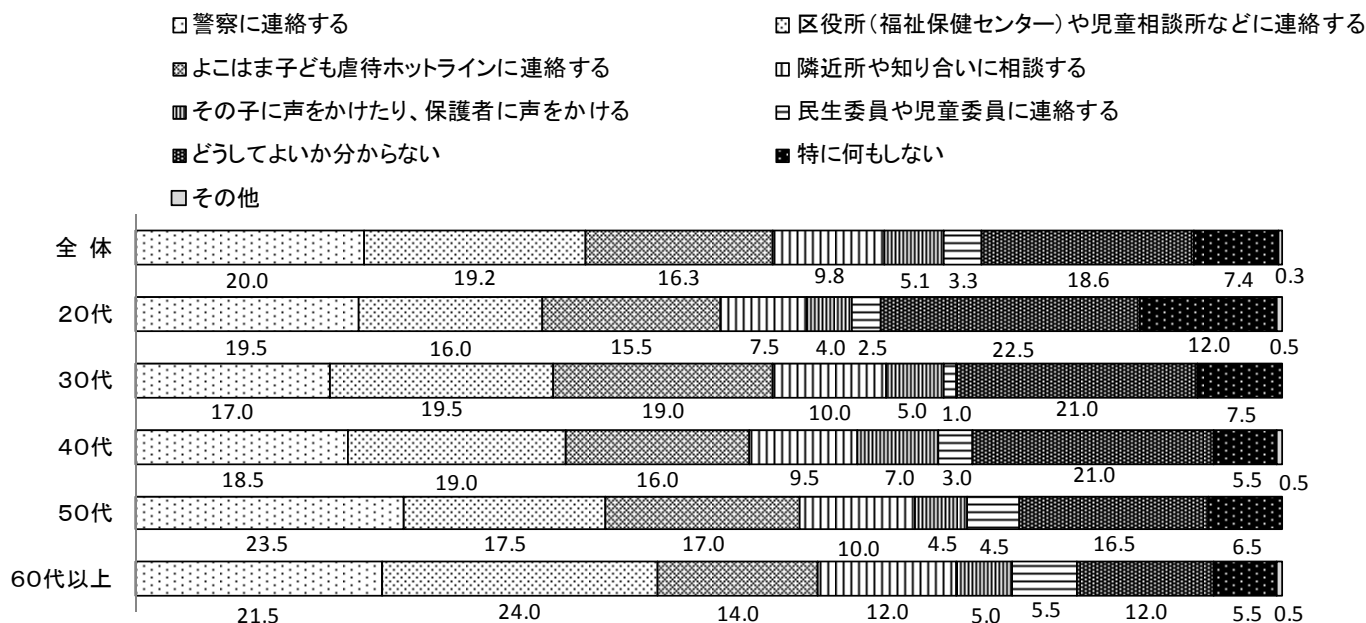
児童虐待が疑われる児童に気がついた場合の対応としては、「警察」、「区役所・児童相談所」、「よこはま子ども虐待ホットライン」といった行政機関のいずれかに連絡すると回答した人は55.5%だった。一方、「どうしてよいか分からない」が18.6%、「特に何もしない」が7.4%となり、年代が低いほどその傾向が強かった。【図33】

また、対応の際に、「特に不安は感じない」との回答は15.6%で、8割以上が何かしらの不安をあげる回答がみられた。【図34】

【図33】 年代別

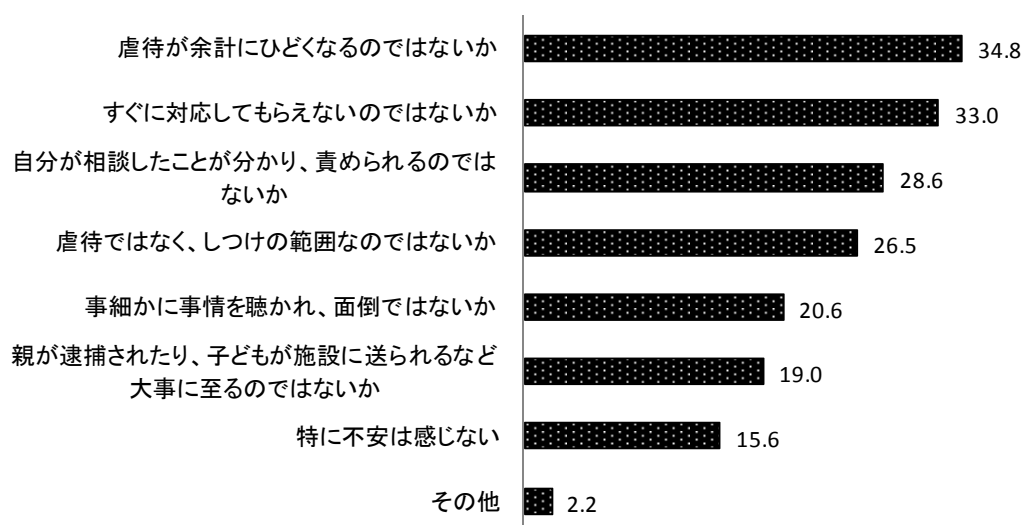
問24 児童虐待が疑われる児童に気が付いた場合、どのような対応をとりますか（単一回答）（%）

（全体：N=1000、20代：N=200、30代：N=200、40代：N=200、50代：N=200、60代以上：N=200）



【図34】

問25 児童虐待が疑われる児童に気づき対応をとる場合に、不安に感じることは何ですか（3つまで回答）（N=1000）（%）



(5) 災害への備え

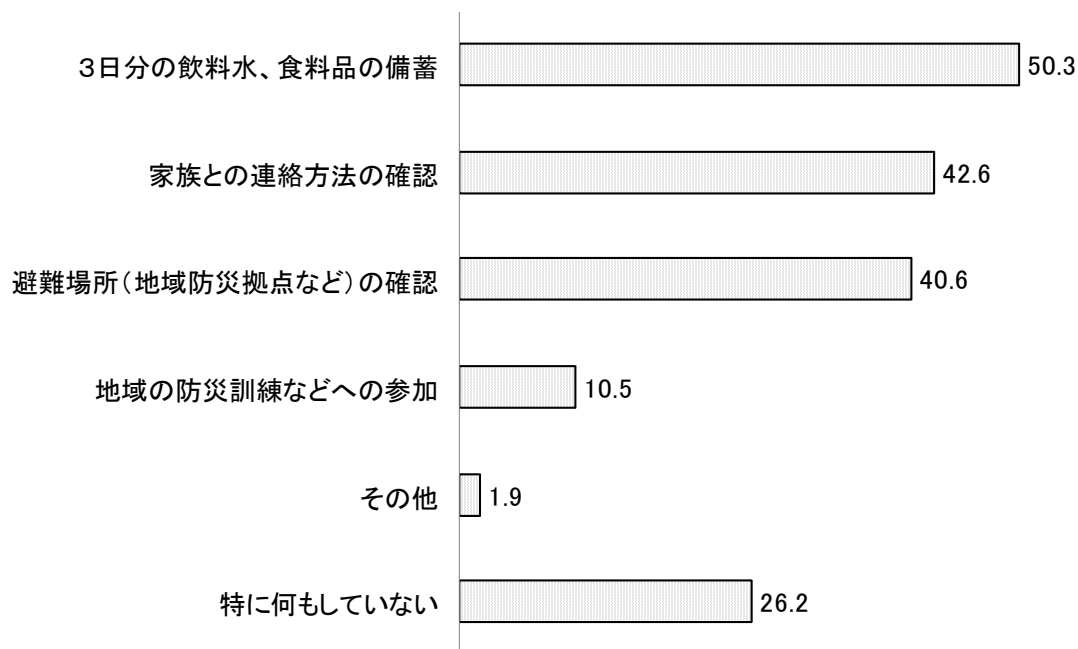
食料品等の備蓄をしている5割、家族との連絡方法の確認4割 ～重要だと感じたのは「家庭での取組」「連絡方法の確認」「行政の啓発活動」～

災害に備えた準備状況を尋ねたところ、「3日分の飲料水、食料品の備蓄」が50.3%に、「家族との連絡方法の確認」が42.6%となった。【図35】一方、ひとり暮らしで「特になにもしていない」との回答は41.7%だった。【図36】

東日本大震災を教訓に防災対策として特に重要だと感じたことは、「食料品の備蓄や家具の固定などの家庭での取組」が最も多く、次いで「帰宅や避難の経路、家族との連絡方法の確認」となった。「避難場所が分かる防災マップの配布など、行政の啓発活動」が重要との回答は42.2%と全体で3番目に多かったが、60代以上では、「いざという時に助け合える住民同士の連携、つながり」との回答が3番目に多かった。また、30代では、「帰宅や避難の経路、家族との連絡方法の確認」との回答が1番目に多かった。【表4】

【図35】

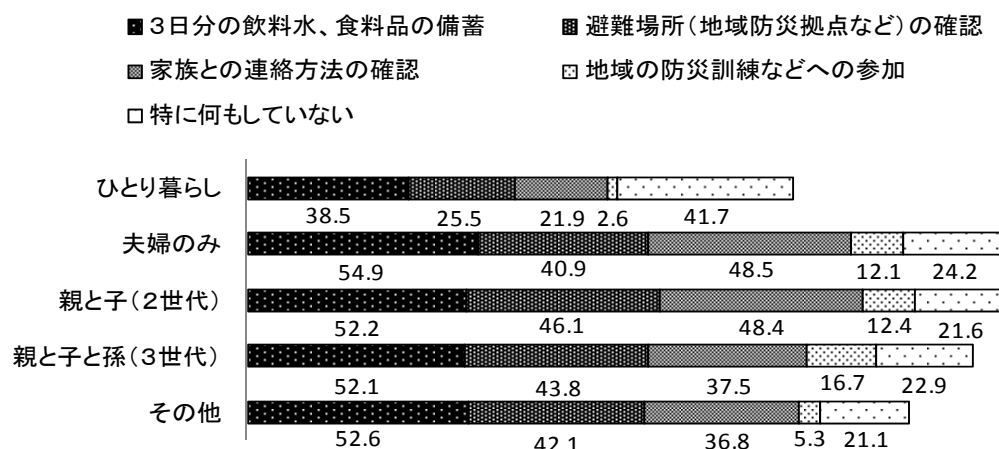
問28 災害に備えてどのようなことを準備していますか（複数回答）（%）（N=1000）



【図 36】 家族構成別

問 28 災害に備えてどのようなことを準備していますか（複数回答）（％）

（全体：N=1000、ひとり暮らし：N=192、夫婦のみ：N=264、親と子（2世代）：N=477、親と子と孫（3世代）：N=48、その他：N=19）



【表 4】 年代別

問 29 東日本大震災を教訓に、防災対策として特に重要だと感じたこと（3つまで回答）（％）

（全体：N=1000、20代：N=200、30代：N=200、40代：N=200、50代：N=200、60代以上：N=200）

	全体 ※括弧内数値は％	30代 ※括弧内数値は％	60代以上 ※括弧内数値は％
1位	食料品の備蓄や家具の固定などの家庭での取組（59.4）	帰宅や避難の経路、家族との連絡方法の確認（59.0）	食料品の備蓄や家具の固定などの家庭での取組（55.0）
2位	帰宅や避難の経路、家族との連絡方法の確認（54.3）	食料品の備蓄や家具の固定などの家庭での取組（57.0）	帰宅や避難の経路、家族との連絡方法の確認（49.0）
3位	避難場所が分かる防災マップの配布など、行政の啓発活動（42.2）	避難場所が分かる防災マップの配布など、行政の啓発活動（44.5）	いざという時に助け合える住民同士の連携、つながり（48.5）
4位	いざという時に助け合える住民同士の連携、つながり（33.8）	いざという時に助け合える住民同士の連携、つながり（29.5）	避難場所が分かる防災マップの配布など、行政の啓発活動（43.0）
5位	医療機関や企業と行政との協力体制の強化（27.1）	医療機関や企業と行政との協力体制の強化（23.5）	医療機関や企業と行政との協力体制の強化（32.0）
6位	地域防災拠点訓練や防災訓練など、日ごろの訓練（13.3）	地域防災拠点訓練や防災訓練など、日ごろの訓練（8.5）	地域防災拠点訓練や防災訓練など、日ごろの訓練（21.0）